

光学天文連絡会会報 No.9

1981年10月31日

光学天文連絡会事務局(款理)発行

Group of Optical and Infrared Astronomers
(GOPIRA)

光学天文連絡会

第3回 総会メモ

- ・日時 1981年 10月13日 17時-18時
- ・場所 京大会館B会場
- ・出席 57名
- ・議長 田村真一

・議事報告

(1) 前回5月12日総会以後の経過について
石田運営委員会委員長から報告

1. オ4回運営委員会(5月14日)

運営委員長:石田(恵). WGの責任者はそれぞれ
望遠鏡:西村, 中井. 体制:田村, 小平, 国際協力:
寿岳, 奥田とすることを決めた.

2. オ5回運営委員会(6月5日)

WGレポート作製・配布について決めた. また
関連シンポジウムの予定について(小暮総研(B))
国内体制^A, 技術開発^B, 外国設置の将来計画の
手順について討議した.

3. オ6回運営委員会(7月21日)

客観情勢として天文研連6月9日, 光学・天文懇談
会(東京), NGTへの技術勉強会(京都), 東大百年記念
国際共同研究の研究費交付決定, 等を考慮して望遠
鏡計画の具体案を作るために原案作製を磯部奥田
両氏に委託した.

京都グループから改めて 海外中口径望遠鏡計画の
提案があった。

4. 原案作成会 (8月8日) (奥田, 磯部, 田村, 冢
小平, 石田恵, 中井, 清水美)

国内は, 2.5m 赤道儀か 3m 経緯儀とし, 外国
設置準備, 機器開発, 外国の天文台への観測申込,
国際協力を強かに進めることとする。

5. オク回運営委員会 (9月7日)

光学・赤外天文学の観測設備として, 当面国内
3m 経緯台望遠鏡案について 学問的要請, 技術的
問題, コスト, 製作期間について検討を進めること
とした。

[II] 前回5月12日総会以後の経過について

事務局長から報告

1. 会報 No.5 (5月27日), No.6 (6月24日), No.7 (9月1日),
No.8 (9月22日) 発行。
2. 光学赤外望遠鏡将来計画検討資料全44頁
7月20日発行。
3. 会員数は現在160名。
4. 会運営のための財政事情が困難である。
5. 次期運営委員の選挙は, 事務局で準備を進める。
6. 次期事務局をどこが受け持つかを考えておいてほしい。

(III) 関連シンポジウム等

1. IAU アジア・アフリカ・太平洋地域会議における話題
(小暮)
2. 岡山シンポジウム 7月21日 - 22日 (冢)
技術シンポジウム 7月22日 - 23日 (野口)
シュミットシンポジウム 9月30 - 10月1日 (田村)
3. 光学・天文懇談会 (田中)
NGTへの技術勉強会 (小暮)
4. 東大百年記念国際共同研究の進行状況 (磯部)
5. 光天連シンポジウム (斉藤衛)

模擬観測計画提案は今までに約50あつまっている。
1990年代の光と赤外の天文学を見通していくために,
銀河, 赤外, 星, 宇宙などに分けて議論する。

オ2部は, 外国設置の大型望遠鏡について, 国内
望遠鏡について, 海外中型と外国旅費, 機器開発
と国内体制などについて。

オ3部で 海外設置の位置づけ, 国内望遠鏡を
どうとらえるか, 将来計画の組み上げなどについて
総合討論をする。

11月9日(月) 13時30分から 11月11日15時までの
予定。上野の国立科学博物館にて。世話人:
斉藤衛, 磯部瑋三, 冢正則, 石田恵一。以上

回覧板

- Prof. R.C. Bless (Univ. of Wisconsin) が来日され、10月13日 Space Telescope について講演をされました。
- Dr. D.N.B. Hall (Kitt Peak N.O.) が来日され、10月19日 光天観で講演をされました。

新入会員

安藤裕康

東京天文台

長谷川俊雄

北海道教育大学旭川分校

村田和美

北海道大学工学部物理工学科

TEL
0166-52-9067

TEL
011-711-2111 内6630

○光天連シンポジウム 回報 No.2

1981年10月27日

来る11月9日から3日間に 行なわれるシンポジウムの目的のオは、世界とわが国の天文学の現状を把握し、将来の発展方向をさぐり、その中でわが国の地上の光学・赤外線望遠鏡による観測研究をいかに発展させるかを明確にすることである。そこで、銀河(小平)、赤外(奥田)、星(辻)、宇宙(寿岳)に分けて30~60分の講演を基調に、いくつかのコメントを加えて討論を行うこととした。先に募集した模擬観測計画の提案(約50件)は、この時の参考資料として使わせていただくこととした。

オの目標は、大型望遠鏡建設計画の具体化について合意に達することである。計画の大枠としてすでに合意済みの3本柱(すはABC路線)のそれぞれについて、海外大型NGT(磯部等)、海外中型(小暮等)、国内3m経緯台(石田等)、機器開発とその体制(田村等)の検討の現状を報告していただき、討論する。いずれの計画についても天文台、技術、研究体制、研究支援体制などの面からの検討が必要であろう。運営委員会の提案は、〔国内3m経緯台プラス海外2.5m赤道儀〕で計画のスタートを切り、体制については、このシンポの討議をもとに検討していきたいということである。

充分な討論の後、研究者・技術者の総意が結集されることを期待するものである。

世話人会

光天連シンポジウムプログラム(案)

	9:00-10:30	11:00-12:30	13:30-15:00	15:30-17:00
11月9日(月)			I-1 銀河 (小平 佐々木敏)	I-2 赤外 (奥田 市川)
11月10日(火)	I-3 星 (辻 平田)	I-4 宇宙 (寿岳 山県)	II-1 海外大型 (磯部 野口 馬場)	II-2 海外中型 (小暮 中井)
11月11日(水)	II-3 国内3m経緯台 (石田・清水 磯部・冢)	II-4 機器開発 国内体制 (田村・若松 前原・安藤)	III 総合討論 (司会 若松)	運営委 予定

運営委
予定

於 上野の国立科学博物館講堂

○ 運営委員会開催のお知らせ

シンポジウムの期間中の11月9日(月)
シンポ終了後と 11日(水)シンポ終了後の
2回を予定しています。

委員長

事務局

606 京都市左京区北白川

京都大学理学部宇宙物理学教室

光学天文連絡会事務局 小暮 智一

郵便振替口座

口座番号 京都17558, 加入者名

光学天文連絡会